

# 8分咲きのハンゲショウ、去年よりさらに増え

## 里山さんぽの鑑賞会に8人が参加

NPO法人・鎌倉広町の森市民の会の年間企画「里山さんぽ」の一環、ハンゲショウ鑑賞会が7月6日に催され、8人が参加して、御所谷上流域の群生地で、8分咲きの若々しい姿に見入りました。

9時半に御所谷入り口を出発、御所川沿いの散策路を東へ。畑、田んぼで作業している市民ボランティアの様子を見ながら、緩やかな坂道をゆっくり進みました。

約20分で目的の群生地に。2アールほどの草地を、数百本のハンゲショウが白く彩っています。

この群生地では10年ほど前から、花数が減る一方でした

が、広町田んぼの会が11年、上流から水を供給し始め、適度な湿度を与えることで、去年、本格的に復活しました。さらにことし、花数が3割ほど増えました。



まだ8分咲きで、花数はもっと増えそうです。参加者たちはそれぞれ、優雅な花にカメラを向けていました。

群生地に給水している水源にも、参加者を案内しました。さらに上流へ、歩いて200メートルほどです。市が設けた石積みの取水堰に、直径5センチ、長さ50メートルの伸縮性チューブの一方の口を流れに沈め、他方の口をハンゲショウ群生地の上流に固定して放水。その水の大部分は導水路を掘って、田んぼの方向に流し、一部だけ群生地に向かわせています。

上流側の取水口からむ落ち葉類を除き、チューブが水を強く吸いこむ様子を、参加者に紹介しました。



## 他の群生地も紹介

この群生地に至る途中で、御所川北岸に「半夏生谷」と呼ばれる1アールほどの枝谷戸があり、そこにもハンゲショウが群生しています。ここは広町自然観察の会が保護、谷川を堰き止め、その水を谷戸に分水して、やはり程度の湿度を与えています。参加者はその枝谷戸の前でも、しばらく足を止めました。

1時間半近い「さんぽ」の途中、参加者はタマムシやカルガモを見たり、コジュケイやガビチョウの鳴き声を聞いたり。谷戸の豊かな生態系の一端に触れました。